

上余白 50mm

卒業研究

センタリング



左余白 40mm

右余白
25mm

約 40mm



書き出しを
そろえる

平成 23 年 (2011 年) 度 卒業

甲南女子大学 人間科学部

心理学科 ○○ゼミ

○○○○○○番 ○○○○

下余白 70mm

上余白 25mm

1行40字 1ページ30行

<問題>

背景が山の街、海の街など、世界中にはいろいろな街があり、それと同時に、色々な色彩の建物もある。

それらの背景と建物が共存し、一つの風景となって、私達の目に入るのだが、はたしてすべての風景において、背景と建物の色彩が調和していると言えるのであろうか。

過去に風景地における建築物の配置や概観デザインに一定の秩序と方向性を与えようとする研究がおこなわれてきた（麻生、1979）が、色彩設計、色彩管理に関する研究はほとんど実施されていない。そこで、麻生・児玉・矢野（1981）は、カラーシュミレーターを活用し、自然景観地における建築物の色彩についてSD法による調査を実施した。

この実験では、景観全体のイメージが建築物の色を変化させた場合どう変化するか、また、景観と調和する最適のイメージがどのように変化するかを調べた。

しかし、麻生らの実験は、実験ごとに刺激が変わるなど不明瞭な点が多いとして、服部・山本(1997)は、すべての実験において同じ写真を用い、景観評価に与える建築色彩の影響について、実験をおこなった。

特に、山と海という背景において、山背景にはこのような色が調和し、海背景には違う色が調和する、という具合に、背景によって調和する色は違うと考えられるのではないか。

では、どのような色が山あるいは海に調和するのだろうか？

このことについて、服部・山本(1997)と原(1998)が、コンピューターの画像処理プログラムを用いて、実験を行った。

服部・山本(1997)は、一対比較法による屋根色の代表色評価の実験をおこなった（実験1）。その結果、オレンジが、背景が山か海かでふさわしさに違いがある屋根色であることがわかった。しかし、この実験では、より景観としてふさわしいと評価される判断基準が明確でないため、原(1998)は、SD法を用いて、そのふさわしさとはイメージ上の違いであるかどうか調べた。その結果、代表色の青、オレンジ、赤、茶色に5項目以上の有意差がでた。ゆえに、服部・山本(1997)と原(1998)は、オレンジ色に対する評価が背景によって全く異なってくるという点で一致した。そして原(1998)は、青色の屋根について、服部・山本(1997)が尺度化した結果と異なることに着目し、服部・山本(1997)が実験1以降取り上げてなかった青

左余白 40mm

右余白
25mm

下余白 70mm

ページ番号 → ○

(フッターは下から 20mm)

心理学科 卒業論文の書き方

1. ワードプロもしくはコンピュータのワードプロソフトを使用。
2. 用紙 A4 版 縦入れ。
3. 原則として、横書きで 40 字 × 30 行の様式。
4. 論文の長さは 10 枚以上（12,000 字以上）とする。
5. 必ずページ番号を入れること。

*設定は別紙を参照のこと

卒業研究の表紙について

表紙に記入する項目 → 別紙を参照のこと。

- 研究題目
- 卒業年度
- 学部学科
- ゼミ名
- 学籍番号
- 氏名

卒業研究の表紙ファイル購入について

下記の場所で販売しています。各自購入してください。

販売場所： 大学生協カウンター

販売価格： 1 部 110円

* 生協カウンターで心理学科の卒論表紙ファイルと
いえばわかるようになっています。

* 今年度の色は **赤** です。